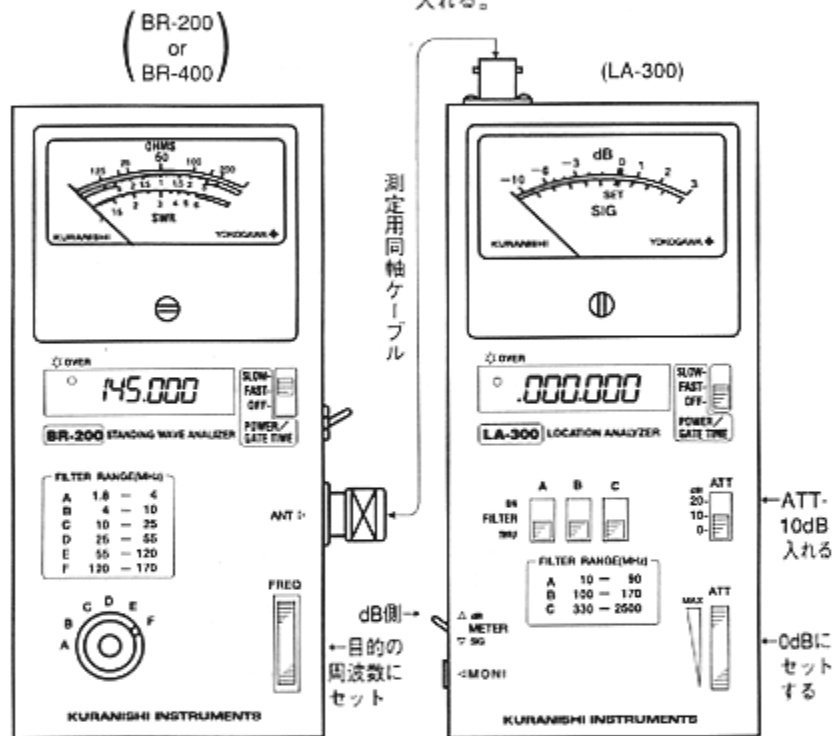


★BR-200、BR-400を御愛用の方はLA-300の基準信号源として使用できます。

- BR-200の信号出力は $\approx 0\text{dBm}$
- BR-400の信号出力は $\approx 2\text{dBm}$

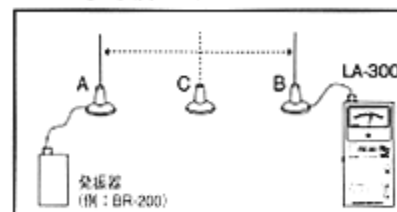
BR-200の出力を基準とし 0dB にセットする
又、BR-400は $+2\text{dB}$ 点にセットすればよい。
 -10dBm を 0dB にセットするためATT 10dB
入れる。



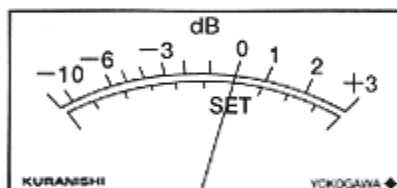
- 信号強度計（非定量）としての使い方
不特定小電力発振器などの信号強度の比較や、発見、電波雑音の発生源の特定などの時は⑨のメーター感度切替スイッチをSIG側に設定します。
この時メーター感度が約 10dB アップされ高感度となります。
- 信号強度計として使用の注意点
本機に付属アンテナを接続して動作させる（フィルターがOFF時）、場所によってはTV、ラジオ、無線局、携帯電話、マイクロ波回線などの電波によりメーターが振れて何を測っているのかわからなくなります。そんな時はアンテナと本機の間目目的周波数専用フィルターを入れるか⑩のセットボリュームでメーターが振れない点まで感度を下げて御使用下さい。

(6)

LA300参考使用例

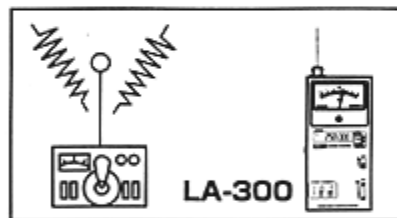


- アンテナの相対利得の測定
A点、B点のアンテナを $1/4\lambda$ アンテナにして、LA-300のメータを 0dB に設定する。
(1) A点のアンテナを $5/8\lambda$ 、 $1/2\lambda$ のアンテナに換えたときのメータの振れを測定する。
アンテナの送信効率が判る。
(2) B点のアンテナを換えてみれば、受信効率が判る。
(3) C点(A点とB点の間)に非接続の $1/4\lambda$ アンテナを入れて位置を動かせば、導波器の原理が判る。



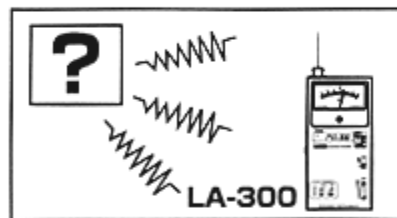
μW 級の電力測定

スルー状態でSGを入力して、 0dB 点に任意の入力として -10dBm ($100\mu\text{W}/103\text{dB}\mu$)を設定すれば絶対値測定ができます。



RFリモコン、ラジコンの出力比較

プロボの出力比較が周波数直読ができます。内蔵電池の電圧低下による出力低下の確認が出来るため、常時最適な出力でコントロールすることができます。
⑪2波、3波が同時に受信されると、周波数カウンターが不安定となります。



不特定の発振機の探査

マルチバンドのフォックスハンティングができます。内蔵のフィルターを活用すれば目的バンドの効率アップができます。

LA-300で測定中、感度不足の場合はWA-300Hで 15dB 感度アップできます。又、信号が強くて内蔵アッテネータで不足の場合はAT-563を御使用下さい。

(7)